

決めるのは私たち

## 6・1マツリゴト day 報告&私的感想

真夏を思わせる強い日差しが照りつける6月1日、白川公園で「日本をとりもどす マツリゴト day」を決めるのは私たち。原発・平和・くらし。すべてのいのちと未来のために。という少々長いテーマの企画が行われました。福島原発事故から3年、秘密保護法の成立や「集団的自衛権行使容認」の動きがある中で、企画の趣旨は以下のように呼びかけました。(一部抜粋)『日本は今、原発を「重要なベースロード電源」と位置づけ、安全性が確認された原発は「再稼働する」として安全審査が進められています。さらには海外への原発輸出さえも推進しています。まだ福島原発事故は収束していないことをそして、今もなお13万5千人の人がふるさとを奪われ避難生活に苦しんでいることを。(中略)それだけじゃない、日本は戦争に向かおうとしている。2013年12月、秘密保護法が強行採決されました。わたしたちの権利や自由が国家権力から不当に奪われないように、二度と戦争という過ちを繰り返さないように、私たちを守るためにある憲法―それさえもねじ曲げようとしています。(中略)私たちのくらしは安全です



三宅洋平さん、広田奈津子さん、中谷弁護士トークセッション



か？平和ですか？本当に豊かですか？政治って難しいけど…それは、私たちの生きるこの日本をこの町を、私たち自身で作り上げること。次の世代のために平和な未来を描くこと。

それを一人じゃなく、多くの人が集う「まつり」の中で見出していくこと。それこそが、「マツリゴト」。私たちの未来は私たちの手の中にあります。今こそ、人まかせにせず、共に考え共に語り合い、私たちの日本を「マツリゴト」を私たちの手に取り戻しましょう！』

準備を始めたのは1月。徐々に思いを同じくする人たちが実行委員会に参加し、企画チーム、マルシエチーム、広報チームと役割分担をしながら準備を進めていきました。メインゲストは三宅洋平さん。100店近いマルシエの出店とステージではスピーチや音楽、トークセッション、最後はデモなど多彩な人たちが多彩な表現方法で今の政治のあり方を問い、主体的に参加することで問題意識を表現することができたと思います。

今回の企画は、当初チエルノフィリ救援中部と未来につながる東海ネット(不戦ネットも参加)

の2団体が発起団体で「脱原発」の課題が発端でしたが、「戦後レジームの脱却」を目指す第2次安倍政権は、原発の再稼働や実質的な



上：アフロヘアのキャンパ隊メンバー  
下：1000人セッション



团的自衛権行使容認、TPPの推進など、政治・経済などあらゆる分野でこのことを実行しています。世論調査では原発にしても、秘密保護法にしても、集団的自衛権行使容認に関しても、世論調査では反対意見が上回っているにも関わらず、実際の政治の場にその意見が反映されるような構造にはなっていません。個別課題でそれぞれ意思表示をすることはもちろん必要ですが、これまでのようなつながりや方法ではこの状況は打開できないのではないかとこの思いで参加しました。

メインゲストがなかなか決まらなかったり、会場の制約があったりなど、様々な困難なことはたくさんありましたし、何よりも企画の趣旨を100%

反映できたとは思いません。

しかし、「マツリ」＝「政」を私たちの手に取り戻すには繋がりを広げ行動することしかないということを、改めて認識した企画でした。

(山本みはぎ)



不戦ネットからの発言

